研修会等の実施状況

資料３－１

◆「ポリファーマシー対策研修会」

開催日時　2019年10月6日（日） 14時から15時30分
場　　所　ホテルグランドパレス徳島
講　　師　東京大学医学部附属病院　老年病科科長　秋下 雅弘 先生
講　　演　ポリファーマシー対策のための多職種協働
参 加 者　134名

◆「市民公開講座」

開催日時　2019年11月3日（日） 11時から12時
場　　所　徳島大学薬学部
講　　師　（一社）徳島県薬剤師会専務理事　伊勢　佐百合　先生
講　　演　ポリファーマシーご存じですか？　～薬物適正使用のために～
参 加 者　70名

◆「お薬相談室」

開催日時　2019年11月3日（日） 12時から14時
場　　所　徳島大学薬学部
相談件数　8件
相談内容　服用薬の重複・併用，薬の副作用，同効薬の違いなど

県民への啓発について

◆ 情報誌「いのち輝く」への掲載

情報誌「いのち輝く」に医薬品の適正使用を県民に啓発する内容の
広告を掲載します。

◆ 啓発用パンフレットの作成・配布

医薬品の適正使用やかかりつけ薬剤師・薬局の利用を促す内容の
パンフレットを作成し，県民に向け配布します。

◆ お薬相談バッグの作成・配布

医師や薬剤師に，服用薬や残薬の相談を促すためのバッグを作成し，
県民に向け配布します。

資料３－２

2019 年度

ポリファーマシー対策研修会

（地域における薬剤師・薬局の機能強化及び調査・検討事業）

～アンケート結果～

一般社団法人徳島県薬剤師会

１．方法

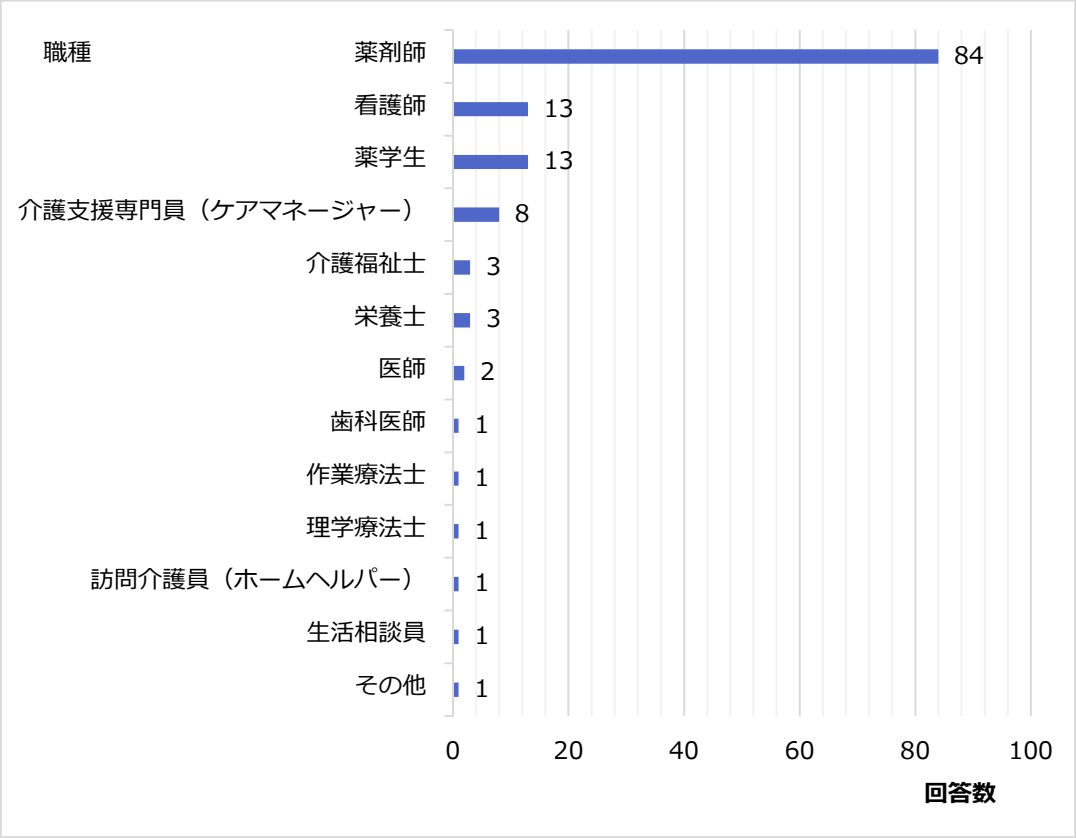
ポリファーマシー対策研修会を次の要領で開催し、アンケート調査を実施した。

開 催 日 時　2019 年 10 月 6 日（日）14 時から 15 時 30 分
場　　所　ホテルグランドパレス徳島
講　　師　東京大学医学部附属病院　老年病科科長　秋下 雅弘 先生
講　　演　ポリファーマシー対策のための多職種協働
アンケート　講演会前に配布し、終了後回収した。

２．結果

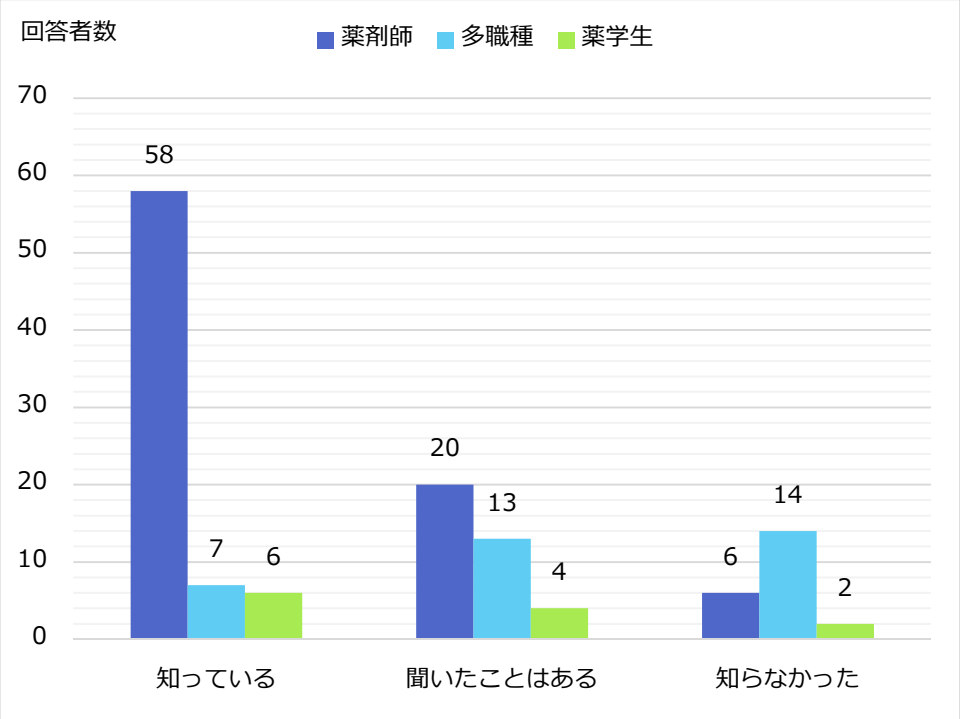
参加者数　134 名
アンケート回答数　130 名
回収率　97%
備考　「質問１　職種をご記入ください。」の回答に「薬学生」と「薬剤師」の両方を回答した者については、本アンケートでは「薬剤師」として集計した。

質問１　職種をご記入ください。（複数回答可）

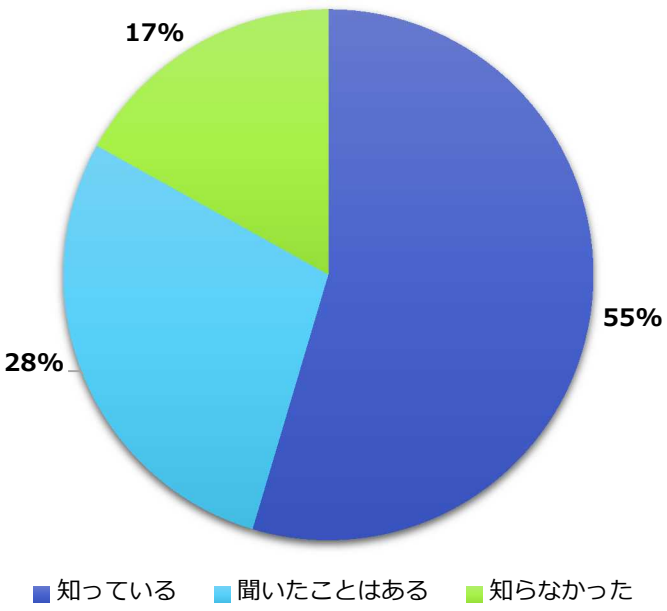


職種	回答数		職種	回答数
薬剤師	84		生活相談員	1
看護師	13		訪問介護員（ホームヘルパー）	1
介護支援専門員（ケアマネージャー）	8		理学療法士	1
栄養士	3		作業療法士	1
介護福祉士	3		薬学生	13
医師	2		その他	1
歯科医師	1			

質問２　ポリファーマシーについてご存知でしたか？

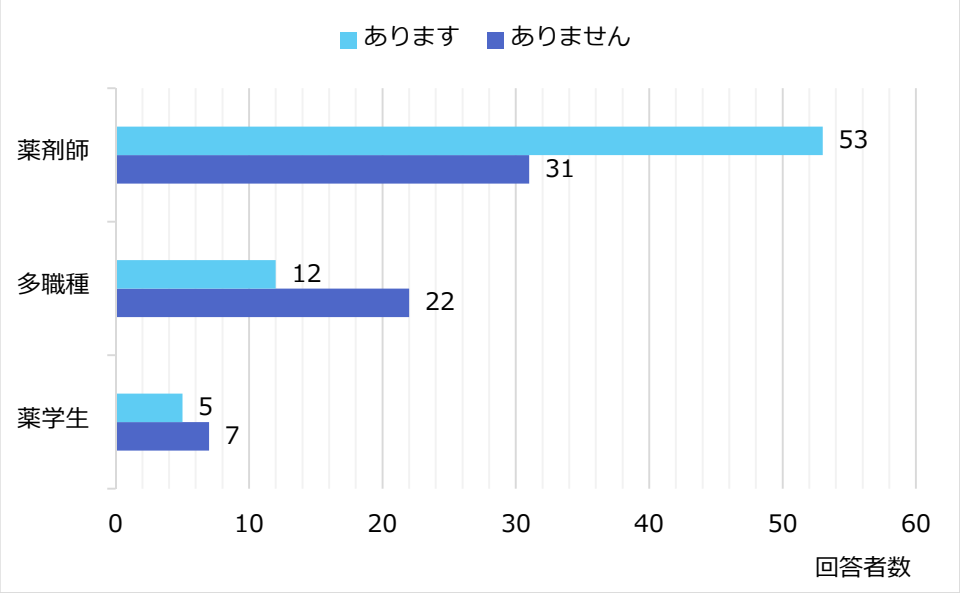


回答数	薬剤師	多職種	薬学生
知っている	58	7	6
聞いたことはある	20	13	4
知らなかった	6	14	2

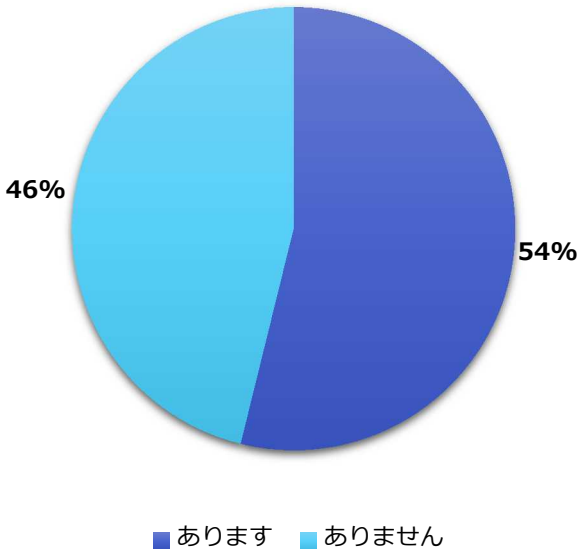


職種の分類無しでの全体の割合

質問３　普段関わっている患者様や施設利用者様にポリファーマシーの問題を認識した事例はありますか？

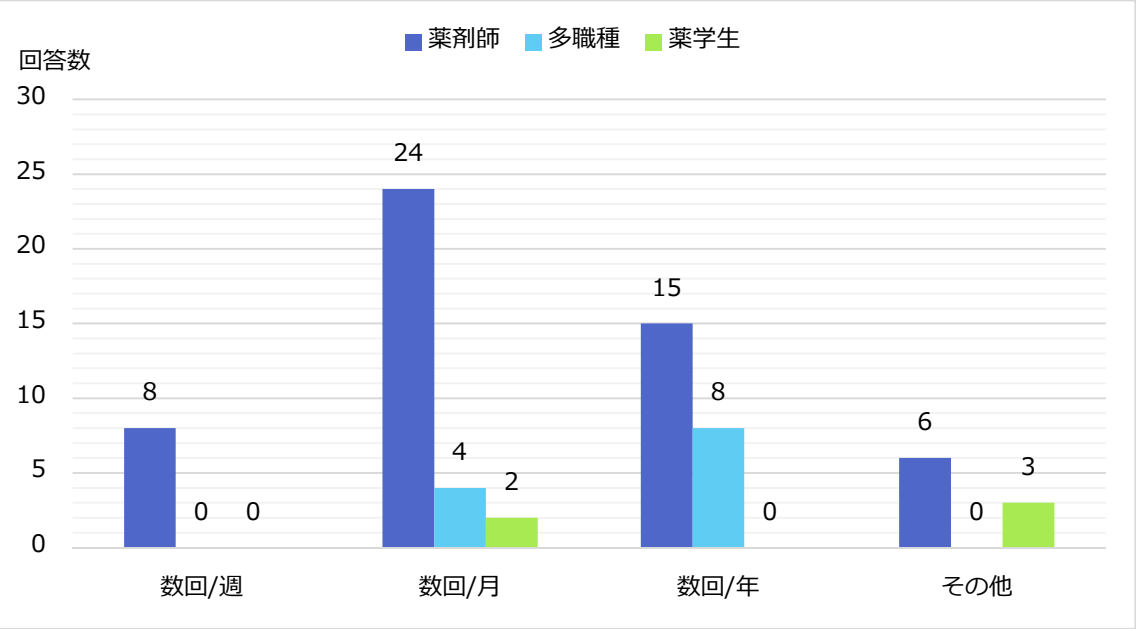


普段関わっている患者様や施設利用者様にポリファーマシーの問題を認識した事例はありますか？	薬剤師	多職種	薬学生
ありません	31	22	7
あります	53	12	5



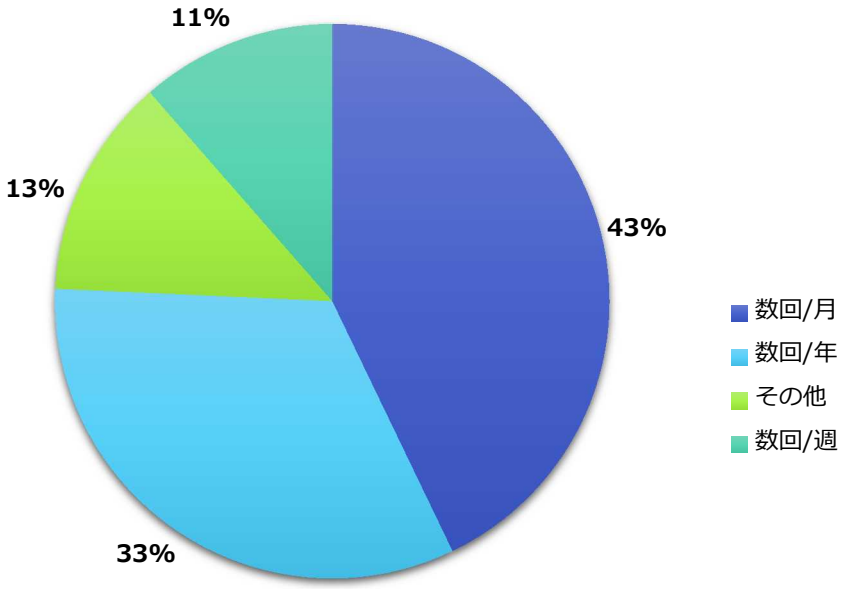
職種の分類無しでの全体の割合

＜「あります」と回答した方の「事例数」について＞



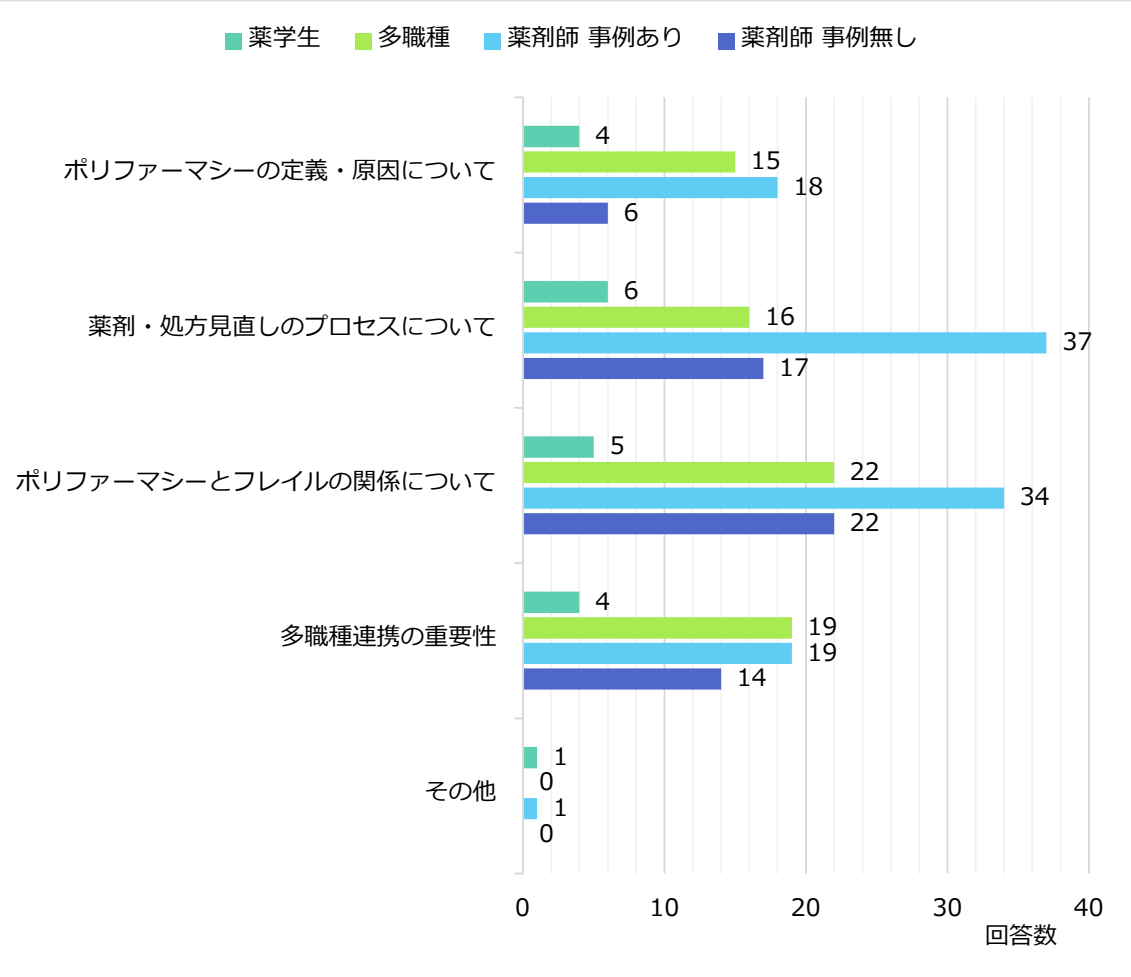
事例数	薬剤師	多職種	薬学生
数回/週	8	0	0
数回/月	24	4	2
数回/年	15	8	0
その他	6	0	3※

※薬学生：実務実習



職種の分類無しでの全体の割合

質問４　本日の講演で、印象深かった内容はどれですか？　（複数回答可）

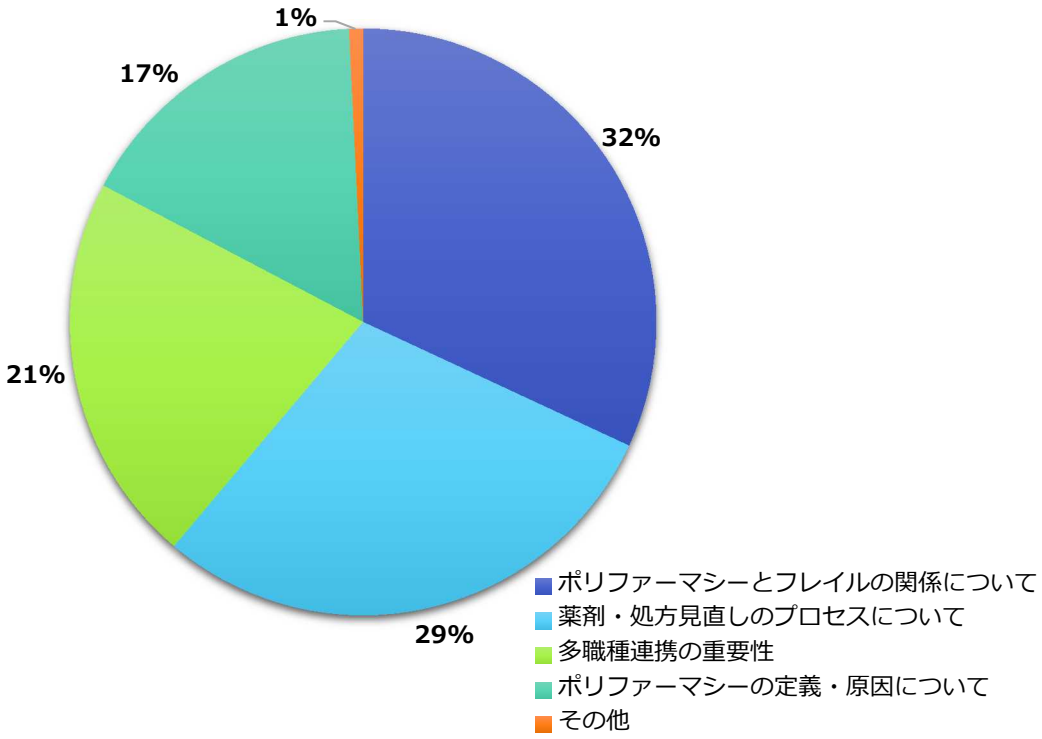


本日の講演で、印象深かった内容はどれですか？	薬剤師 事例無し	薬剤師 事例あり	多職種	薬学生
ポリファーマシーの定義・原因について	6	18	15	4
薬剤・処方見直しのプロセスについて	17	37	16	6
ポリファーマシーとフレイルの関係について	22	34	22	5
多職種連携の重要性	14	19	19	4
その他	0	1	0	1

その他 2 件

・認知症と血糖値の関係について（薬学生）

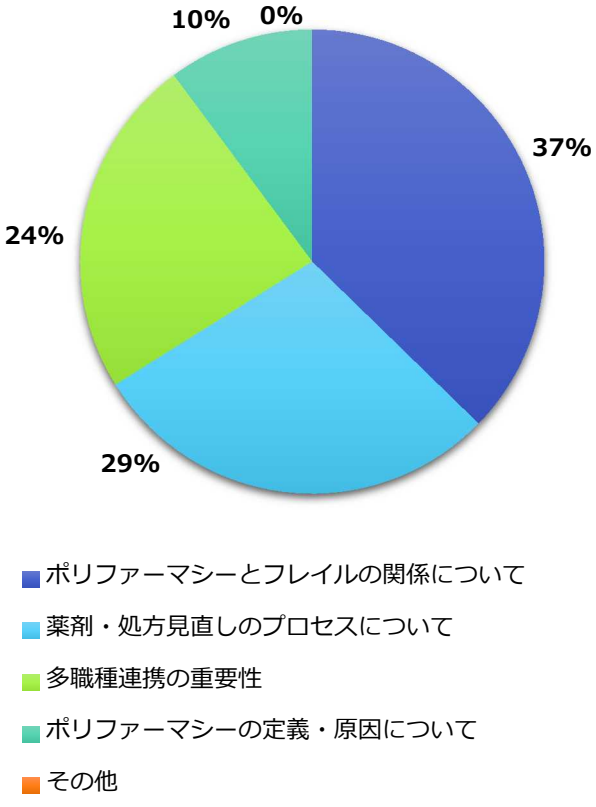
・薬剤師のスクリーニングと処方への影響（薬剤師）



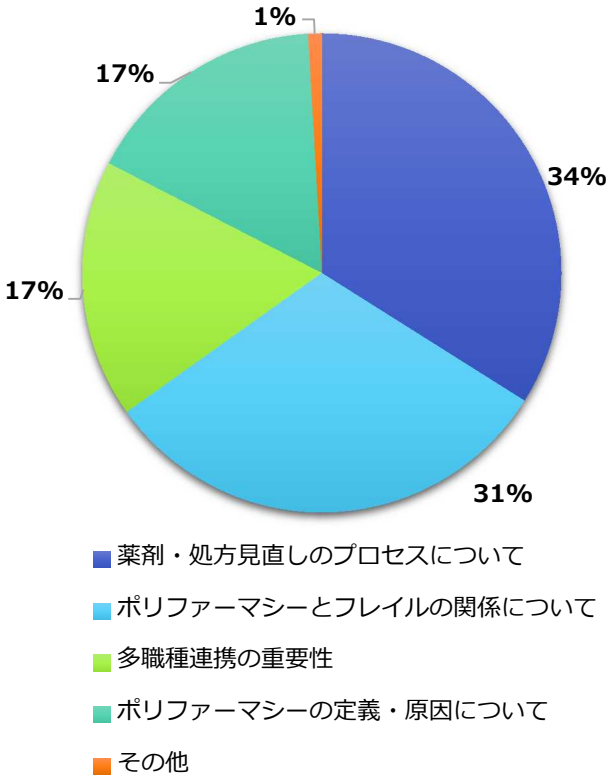
職種の分類無しでの全体の割合

＜薬剤師＞

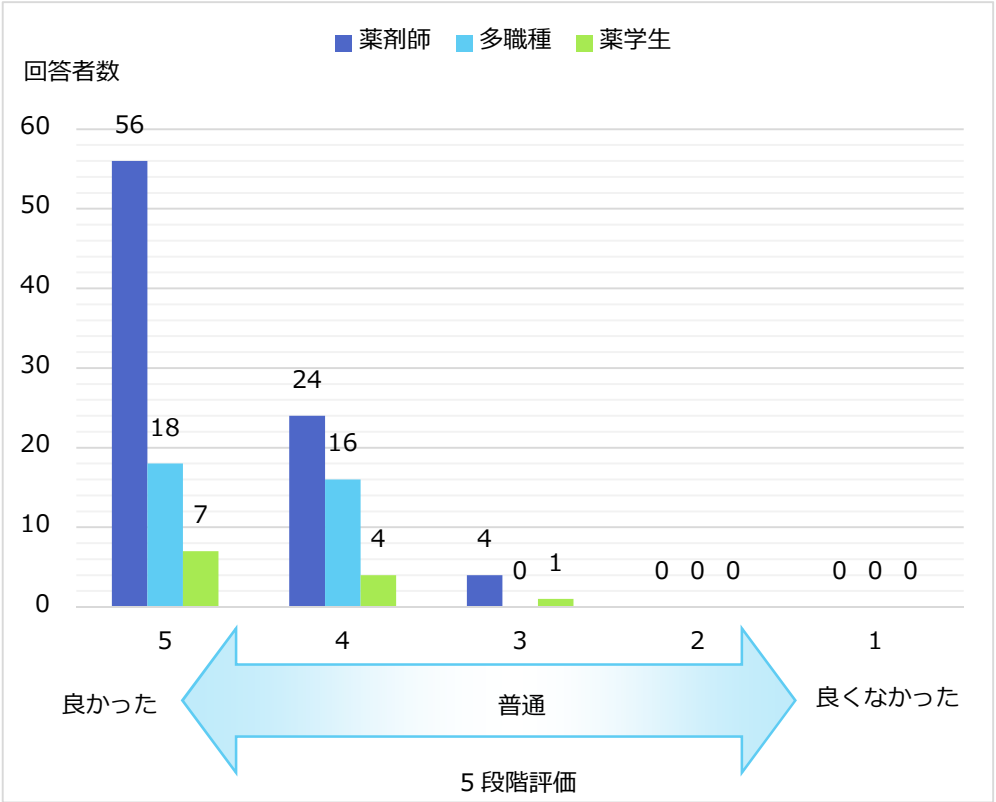
事例無し



事例あり



質問５　本日のポリファーマシー対策研修会に参加して良かったですか？



評価		薬剤師	多職種	薬学生
良かった	5	56	18	7
↑	4	24	16	4
普通	3	4	0	1
↓	2	0	0	0
良くなかった	1	0	0	0

質問６　受講前と受講後でどのような変化がありましたか？　明日からどのように取り組みたいと思いますか？　また、次回の研修会の内容について希望などあればご記入ください。（自由記載）

①　薬剤師

- メタボとフレイルでは非薬物療法も異なり、治療の有益性と有害事象に加齢変化があることがわかった。
- ポリファーマシーの事例は多いと感じる。これまでどこからどうすればよいのかわからなかったが、本日の講演を聴いて、急がなくとも、徐々に考えていけばよいことがわかった。一人の薬剤師としてできる可能性があると思った。
- プロセス、テンプレート、ガイドラインなどを参考に取り組みたい。
- 多職種と情報共有ができる関係をつくり、安全・安心で効率的な医療を提供できるよう努めたい。
- 多職種、患者と連携し、処方薬の見直しなどに努めていきたい。
- 普段の服薬指導においても、患者の様子をもっと注意深く聞く必要がある。
- 患者の状態や様子を確認し、薬が問題と考えられる症状発現を見た場合は、医師に処方提案をしていきたい。
- 医師への処方薬変更の提案は、ハードルが高いと思っていたが、剤形の変更や服用回数を減らすなどの提案から始めてみたい。
- 患者への投薬時の聞き取りで、生活面についてもっと聞けるような質問をしようと思った。
- 胃薬は他院での服用薬が重なる場合が多いため注意していきたい。
- 血圧、HbA1c 値などの基準値を見て対応するのは、患者により対応が異なっており、基準値のみで服薬指導してはいけない。
- フレイル型の患者に対する薬について理解不足とわかったので、投薬時の患者の状況をしっかり確認していこうと思った。
- 10 剤以上も服薬している患者がいる。減薬ばかり考えていたが、10 種類でも、有害事象がないなどでそれだけ必要な患者にはポリファーマシーとはいえない。患者に必要な薬とは何かを見極めることが重要だ。今後は見守っていこうと思う。
- 処方の適正化についてスクリーニングを考慮しながら処方箋をあらためて確認していきたい。意識して患者の生活などヒアリング時に確認し、有害事象の発現の有無をみて行けるよう取り組みたい。
- いまだに薬を欲しがる患者が多いと思う。薬の有益性と有害性を説明し、適正な投薬がなされるよう手助けをさらに深めていきたい。しかしながら、有酸素運動や節制と、栄養素の積極的な摂取、筋力アップ運動への切り替え時期の難しさを感じる。
- 多職種協働について施設内から地域へさらに拡大させていきたい。
- 施設の定期薬で多剤服用患者がいる。早速見直してみようと考えている。
- 医師への処方提案について、どのようにすれば導入のきっかけができるのか、医師側の意見を聴くことができ非常に参考になった。
- 当院でもポリファーマシーに取り組んでいる。しかしなかなか思うように進まないことが悩みであった。いきなり処方内容に介入するのではなく、まずは、アドヒアランスを良好にすることから始めればよいことがわかったので、そこから介入していきたい。
- ポリファーマシーの知識としてはすでに知っていることが多かったので、どう改善のための行動を起こすか？　ということが必要と思う。
- 特に良いと思われる考え方がなかった。

次回の研修会について
- 病院と院外薬局の連携

② 多職種
- 事業所から服用状況についての質問があまりなく、携わっていない事例があった。多職種連携の中でもう少し踏み込んでいく必要があると改めて思った。
- 病棟での患者の状態などについて積極的に多職種に伝えていけるようにしたい。
- 利用者が飲む薬をあらためてみて行こうと思う。
- 内服がうまくできていない場合、なぜなのかをきちんと聞くことが大切と思った。医師にはその理由を説明し、処方の見直しにつなげていきたい。
- ケアマネージャーとして利用者の服用薬についての再確認が必要と思った。
- 多くの薬を服用している高齢患者が多く、年を重ねていくうちに ADL や認知機能の変化もしているため、それに応じた薬の処方の変更も必要と思った。
- 抗コリン薬を減らす方向を考えたい。
- ポリファーマシーを日々意識していきたい。
- 多くの専門医にかかっている患者の薬について、集約が必要と思った。今後、主治医の処方チェックだけでなく、専門医の処方チェックもしていこうと思った。
- ホームページなど、様々なツールで確認して、その資料をもとに、多職種間で話し合える場が欲しい。
- 講演の内容に専門用語が多く、難しかった。事例を取り入れながら説明していただければ、もっと多職種との連携の大切さや内容が、伝わりやすいのではないかと思った。

③ 薬学生
- ポリファーマシーと患者さんの状態・フレイルについて、見直しを行うタイミングやプロセスについて、初めて聞いたので勉強になった。
- メタボなどの生活習慣病が死因となったり、QOL の低下に大きくかかわっていると授業で習っていたので、自分も気をつけようと思っていた。しかしこの講演を聴いて、タンパク質をとったり、血圧が低すぎることに注意したりする必要があると思った。
- ポリファーマシーは単に多剤服用を指す言葉だと思っていたが、効果のない薬や拮抗作用のある薬を飲んでいることを指す言葉だと知り、考えが深まった。Multimorbidity の説明をもう少し詳しく聞きたかった。
- フレイルについて初めて知った。
- 祖父の服用している薬用量が気になり、今日の講演に参加した。ポリファーマシーについて知ることができて良かった。かかりつけ薬局を祖父と一緒に決めて、薬剤師と一度相談してみようと思った。

3．結果と考察

1）参加者は多職種よりも薬剤師が大多数に及んだ。また、多職種の方々でポリファーマシーについて「知らなかった」と回答した者が 4 割近くいた。ポリファーマシーについて知ってもらい、地域連携を図るためには、多職種の参加者をもっと増やす必要がある。情報提供の対象を県全域の関連施設に拡大させるなど広報の在り方も見直す必要があるのではないか。

2）ポリファーマシーについて「知っている」「聞いたことがある」と回答した者は 8 割を超えたが、これまで知り得た知識がより一層深まったと思われる。

3）薬学生は教育課程のなかでポリファーマシーに関する学習をするので、 6 年制課程修了の薬剤師の場合は、さらに踏み込んだ内容の研修がよいのではないか。

4）ポリファーマシー問題を認識したという事例に「ある」と回答した者について（質問 3 ）

・薬剤師は 5 割を超えて「ポリファーマシー問題を認識した事例がある」と回答しており、薬剤師会組織と行政がタイアップして、ポリファーマシー解消のためのノウハウなど事例をあげた実務研修を導

入することも必要ではないだろうか。
その一方で多職種の場合は４割に満たない。ポリファーマシーの基本的知識・問題、対策について、基本的なところから情報提供することが必要で、啓発活動を継続していく必要があると考える。

・ポリファーマシー問題を認識したという事例に「ない」と回答した薬剤師３名が事例数を記入していた。本講演を聴き、ご自身の事例がポリファーマシー問題の対象であったことに認識していただけたのではないだろうか。

・事例数のうち、週数回あるというケースもあることがわかった。「質問６」の個々の意見や感想も踏まえ、個人情報に注意しながら、症例検討会の開催もポリファーマシー対策につながると考える。

5）「質問４」について
アンケート回答者全体を見ると、「ポリファーマシーとフレイルの関係について」関心が最も高かった。しかし、薬剤師のうちポリファーマシーを認識した事例があると回答した者は、「薬剤・処方見直しのプロセスについて」関心が高いことがわかった。一方、ポリファーマシーを認識した事例の無い薬剤師と多職種の場合は、「ポリファーマシーとフレイルの関係について」最も関心が高かった。このことから、様々な意見の交わせるワークショップ形式での研修も薬剤師と多職種との連携はよりスムーズに進むのではないだろうか。

6）研修会の５段階評価は４以上が大多数に及んでおり、こうした研修会の開催が、薬剤師と多職種がともに学び考えていく場として、継続していくことができれば、徳島県のポリファーマシー対策に拍車がかかると考える。さらに、そこから県民の方々に対する薬の適正使用、医療の質向上につながり、患家の家族の生活をも守ることができると考える。

一般社団法人徳島県薬剤師会薬事情報センター2019 年 12 月 18 日作成

資料３－３

2019 年度市民公開講座

ポリファーマシー（多剤併用）対策について

（地域における薬剤師・薬局の機能強化及び調査・検討事業）

～アンケート結果～

一般社団法人徳島県薬剤師会

１．方法

市民公開講座「ポリファーマシー（多剤併用）対策について」は、薬と健康の週間事業「くすりと健康フェアーくすりのこと知っとう day－」において実施した。

開 催 日 時　2019 年 11 月 3 日（日）11 時から 12 時

講　　師　徳島県薬剤師会専務理事　伊勢　佐百合　先生

アンケート　講演会前に配布し、終了後回収した。

２．結果

参加者数　70 名

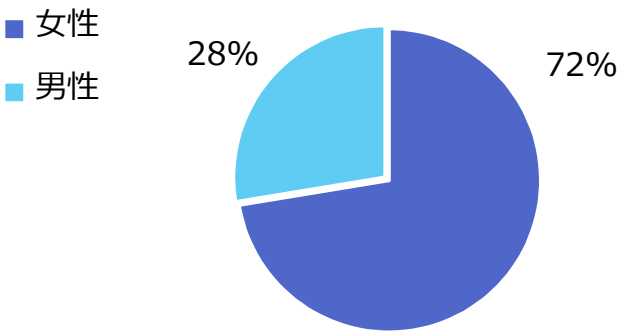
アンケート回答数　29 名

回収率　41%

質問１

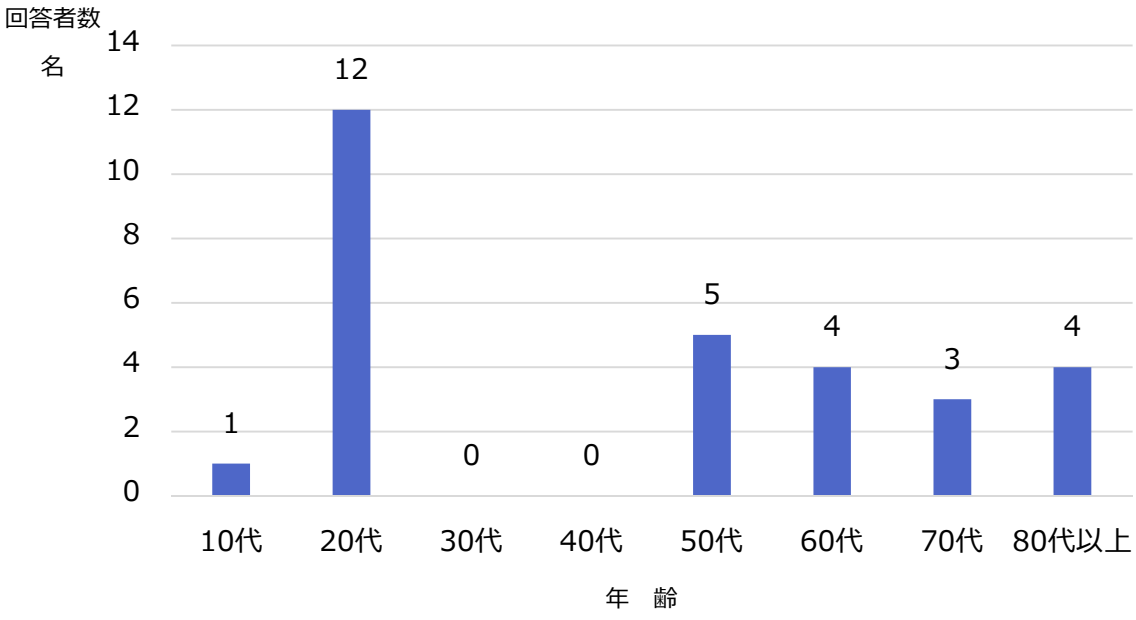
＜性別＞

男性	女性
8	21



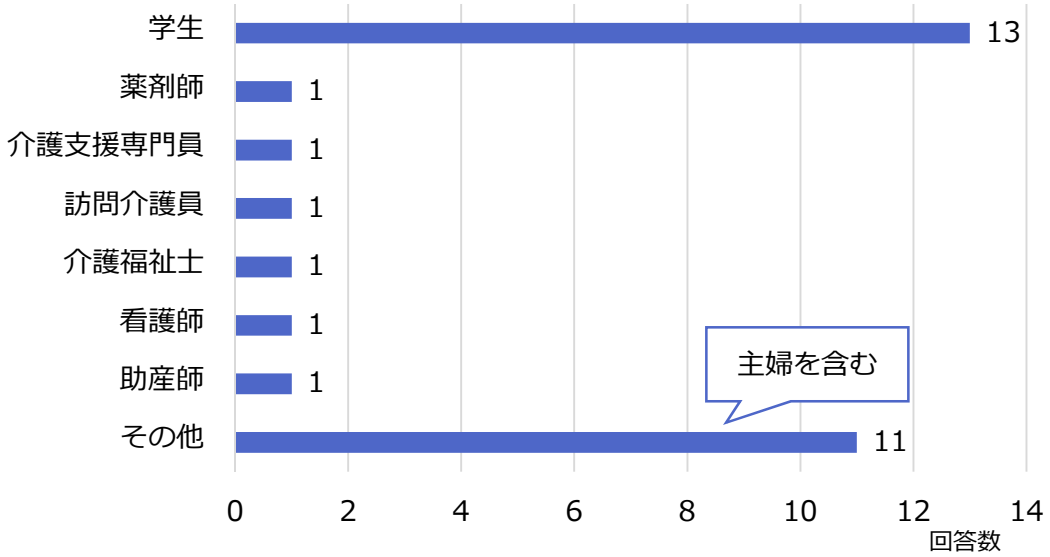
＜年齢＞

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
1	12	0	0	5	4	3	4



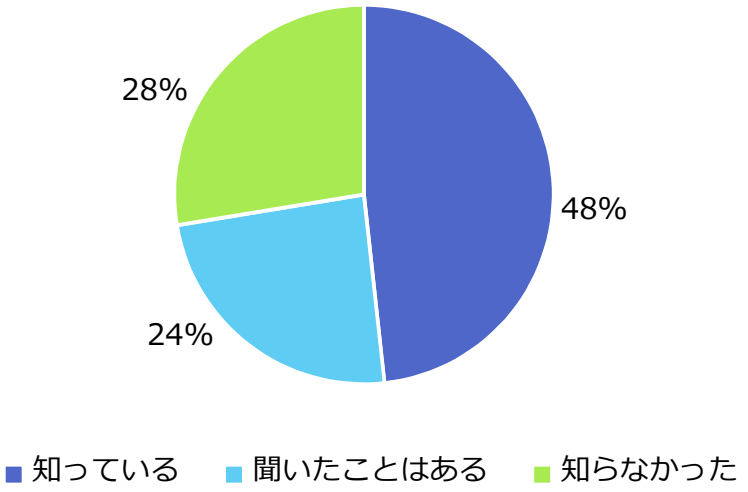
質問２　職種（複数回答有り）

学　生	助産師	訪問介護員	介護支援専門員	介護福祉士	薬剤師	看護師	その他
13	1	1	1	1	1	1	11



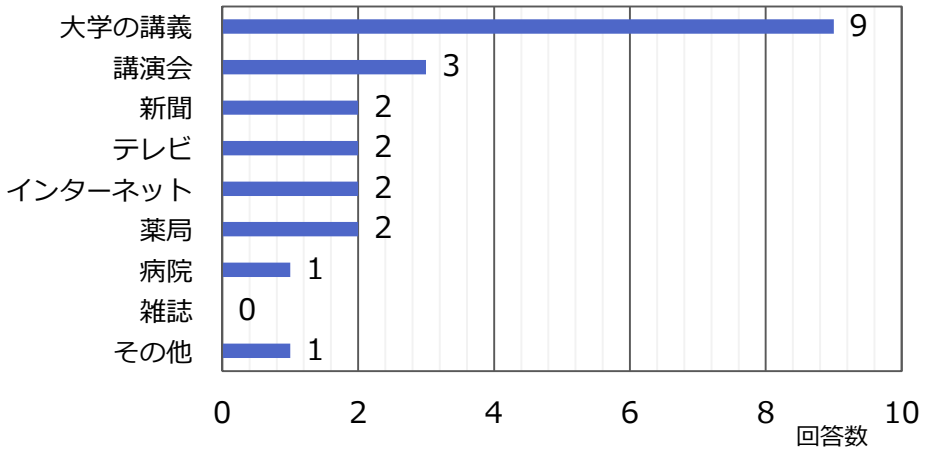
質問３　ポリファーマシーについてご存知でしたか？

質問	回答者数
知らなかった	8
聞いたことはある	7
知っている	14



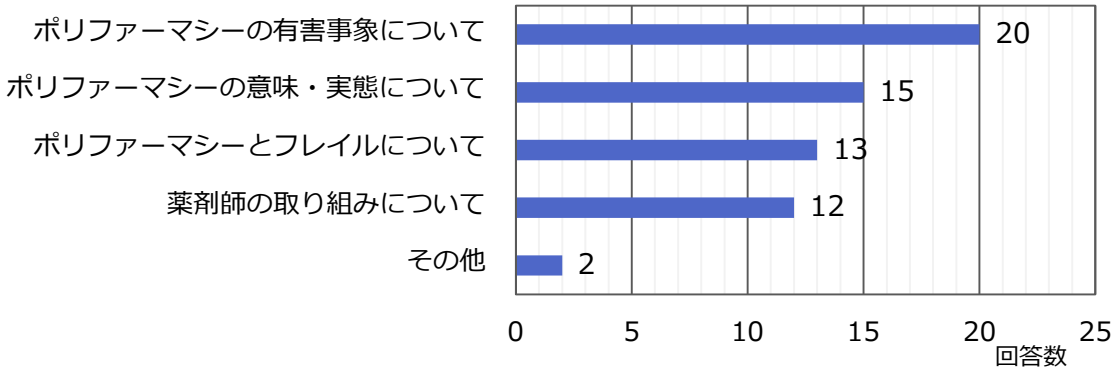
質問４　ポリファーマシーについて、聞いたことはある・知っているに〇印を記入された方にお伺いします。何でお知りになりましたか?（複数回答可）

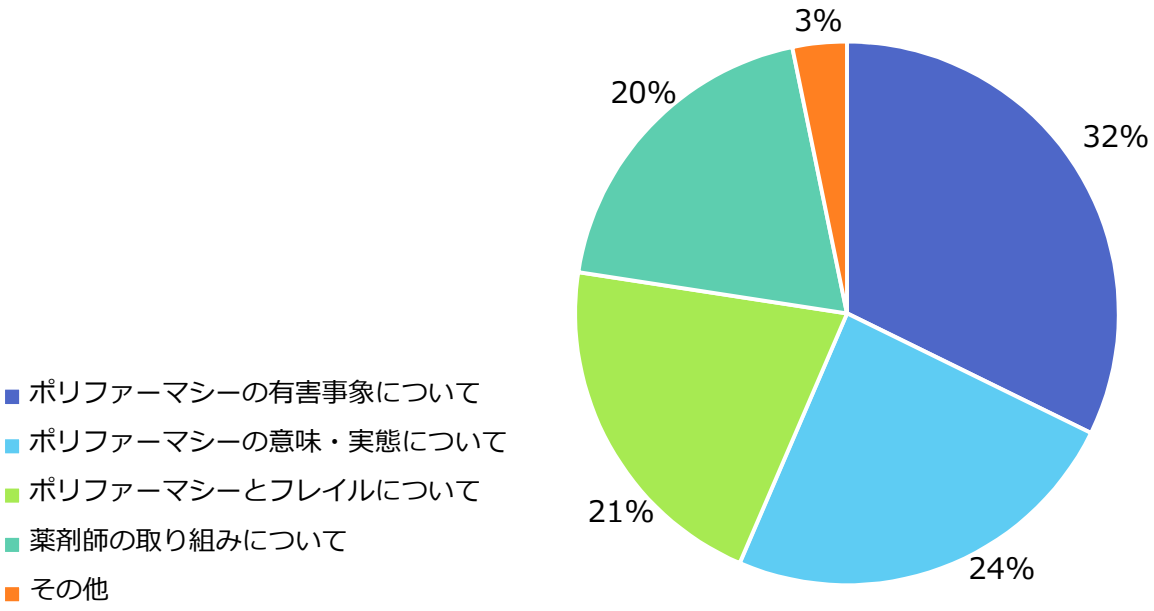
情報入手先	回答数
大学の講義	9
講演会	3
テレビ	2
新聞	2
インターネット	2
薬局	2
病院	1
雑誌	0
その他	1



質問５　本日の講演で、興味深かった内容はどれですか？（複数回答可）

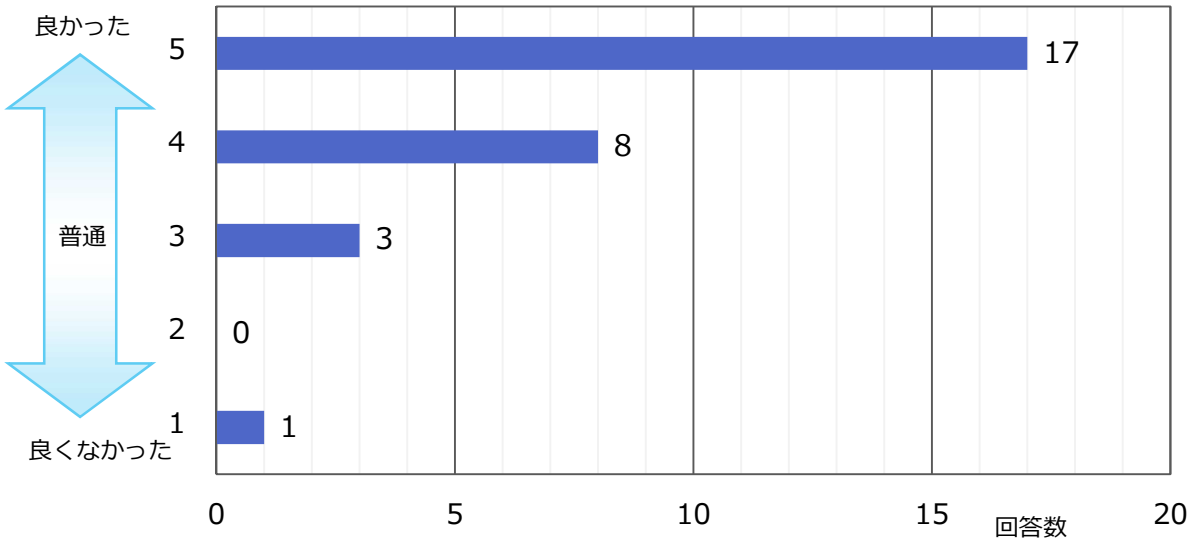
興味深かった内容について	回答数
ポリファーマシーの有害事象について	20
ポリファーマシーの意味・実態について	15
ポリファーマシーとフレイルについて	13
薬剤師の取り組みについて	12
その他	2





質問６　本日の市民公開講座に参加されて良かったですか？

評価項目	5 段階評価	
良かった	5	17
↑	4	8
普通	3	3
↓	2	0
良くなかった	1	1



質問７　①　受講前と受講後でどのような変化がありましたか？　今後の生活に、健康を考えるうえで役立ちそうですか？　また、②　次回の市民公開講座の内容について希望などがあればご記入ください。

①　受講前と受講後でどのような変化がありましたか？　今後の生活に、健康を考えるうえで役立ちそうですか？

・薬の体内動態は個人差や年齢によって異なるので、適切な薬を選び、用量を考えることは大事だ。
・PIMs という言葉を初めて知った。
・ポリファーマシー問題が起きた具体例があってよかった。
・ポリファーマシーにならないよう注意したい。
・講演会場がイベント会場と同じ場所では設営が不適切と思った。会場で聞こえる様々な音に講師の話がかき消されて聴きづらかった。講師として話す側も話しづらかったのではないか？
・医師任せにしないことも必要と思う。
・お薬手帳は必需品に思う。
・処方の負のカスケードの具体例はわかりやすかった。
・将来薬剤師になったら、患者さん一人一人に最適な処方をお届けできるようになりたいと思った。
・薬について不明な点、体調不良の時などは、薬剤師さんに相談しようと思うようになった。

②　次回の市民公開講座の内容についての希望

・P4 医療と薬剤師の関わりについて
・漢方薬
・薬と疾患
・薬と添加物

３．結果と考察

１）アンケート回収率４割にとどまった。
２）回答者は「薬学生」が最も多く、次いで「その他」が多かった。「その他」と回答した者のうち 10 名は女性で「主婦」と回答していた。
３）ポリファーマシーを「知っている」、「聞いたことがある」と回答した方がアンケート回答者の 7 割近くいた。ポリファーマシーについての情報入手手段は、やはり薬学生が多かったため、「大学の講義」の回答数が最も多かった。「雑誌」から知ったという回答者はいなかった。
４）講演で興味深かった内容についてみると、ポリファーマシーの有害事象についてが、最も回答数が多く、次いで多かったのはポリファーマシーの意味と実態についてであった。また、ポリファーマシーとフレイルについても回答数があったことから、このたびの講演会をきっかけにポリファーマシーへの関心をもってもらうことができたと考える。一方、薬剤師の取り組みについては、今後もこうした事業を継続することで、地域の薬剤師・薬局が地域住民のポリファーマシー対策に欠かせない存在であることを理解してもらい、取り組みがスムーズになり、薬剤師・薬局の機能強化へと結びついていくと考える。
５）講演に具体例を取り入れることで、聴講者にはより分かりやすかったと考える。
６）薬物治療を受けている高齢の聴講者の方々には、ポリファーマシーに対する注意喚起ができたと考える。

一般社団法人徳島県薬剤師会薬事情報センター2019 年 12 月 16 日作成